

社団法人山形県歯科技工士会第50回定時総会



平成19年5月20日（日）ホテルキャッスルに於いて、第50回定時総会が開催された。はじめに庄司和弘副会長の開会、続いて赤塚会長のあいさつとして、今年の7月22日（日）に予定されている参議院選挙において我々歯科技工士の社会的地位が確立される節目であり、この度は、是非とも思いを政界に届けたい、と述べられた。次に、議長に村山支部の卯月 清治氏が選出された。



議長の 卯月 清治氏



議事録署名人には村山支部の庄司 正徳氏・庄内支部の後藤 和雄氏が選出された。なお、会員数195名に対し、24名の出席、委任状が94名で総会は成立された。

議事として、第1号・2号議案の平成18年度事業報告・会計報告が各担当理事より説明され、続いて、監査報告として、監事の川井雅浩氏より監査報告を受けた。それに対し、庄内支部の後藤和雄氏より、会費未収金が少ないのではないかという質問があり、執行部は、18年度のみであることを説明。原案どおり承認を得た。

第3号・4号議案の平成19年度事業計画（案）・予算（案）が各担当理事より説明され、第3号・4号議案の承認を得た。

第5号議案の任期満了による役員改選について、上林選挙管理委員長から、立候補者・推薦がなかった報告を受け、赤塚

会長の3期目の再任が承認された。その他として、大友連盟会長からは、中西会長の現状説明と4月29日寒河江のハートフルセンターで行われた総決起集会の内容説明と、7月への選挙に向けての更なる協力を願った。(なお、4月29日の総決起集会の様子は日技のホームページからご覧になれます。)



質問する後藤和雄氏・鈴木良仁氏

その他質問として、中央支部 鈴木良仁氏より南部3県野球大会を今後どう考えているのか、新入会員があり野球をやるのに無くすことばかりではなく工面して残す方法はないのか?と質問があり執行部は少ない予算の中、工面して会員を維持するだけでなく、増やす考えで検討すると答えた。

最後に、齋藤博夫副会長の閉会で終了した。

第28回 山形県歯科医師会・山形県歯科技工士会共催学術講演会

平成18年11月26日(日)午前10時より山形県歯科医師会館4階大会議室にて茨城県新治郡にて開業の明海大学歯学部臨床教授 上濱 正 先生をお迎えし、『最新の欠陥補綴治療』をテーマに開催された。

富田 滋 山形県歯科医師会学術担当理事より、28回という長い期間に亘り継続して開催されている、全国に例を見ない意義のある共催学会の大切さということで挨拶された。



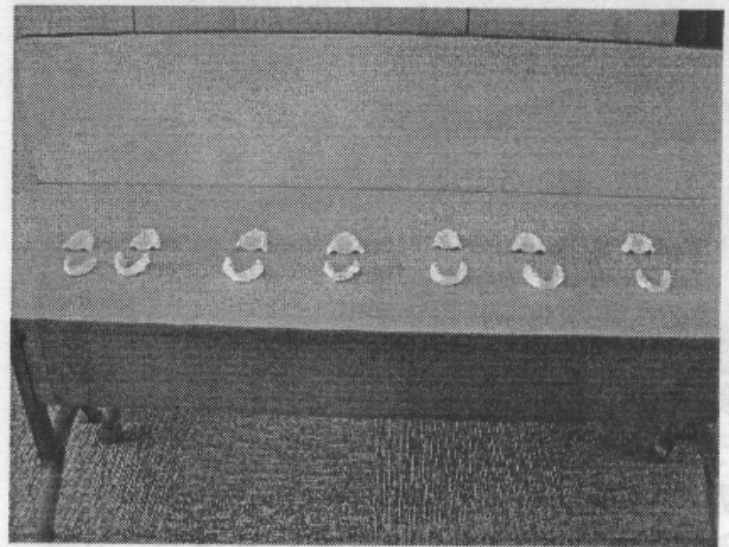
講演会は、はじめに「歯科医師と歯科技工士がそれぞれの立場で専門的な知識と技術を出し合い、チェアサイドとラボサイドとの共同作業内容に、相互理解と信頼関係を高めた状態でデンチャーが構築されて、初めて患者さんに喜んで頂けるのである。」と話された。近年の日本人はカリエスよりも歯周炎や根尖病巣により天然歯を喪失している場合が多いので、歯槽骨はすでに吸収し、顎骨まで及んでいるケースが増加している。このことが義歯の支持、維持を不安定にし、口腔周囲筋や舌の付着部の露出を招き、筋平衡を不安定にしている。さらに、顎提吸収の進行により下顎偏位を伴う機能障害が増加している。印象採得、咬合採得のみで4つの要素、(支持・維持・筋

平衡・咬合平衡)を満足させる義歯治療を行える症例は減少し、治療義歯を応用して、4つの要素で口腔機能を用い、時間をかけて治療する症例が増加している。

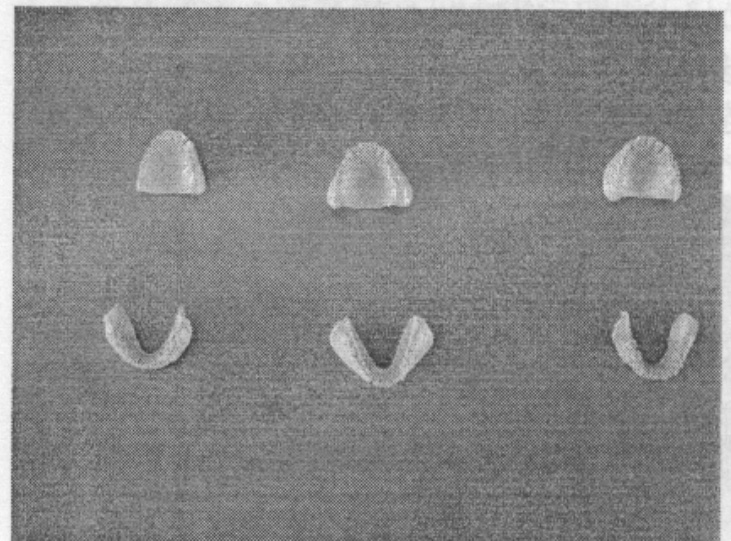


その治療は、正確な診査・診断に基づき、維持力(6種類)、支持力(静的、動的支持力)を正確に印象採得する。安定した咬合床を用いて、患者の機能と審美性を重視した咬合採得する。中枢神経(筋-顎関節-咬合)の機能的咬合系を考えた治療用義歯を用いて下顎位の修正後、下顎運動を安定化させ、舌運動と顎運動の協調を計る目的で治療を行う。患者の咬合・咀嚼機能が活性化された状態の治療用義歯(粘膜面、研磨面、咬合面など)の形態を高精度で最終義歯に置き換えて完成させるものでした。また、歯科技工士にとっては、総義歯製作に必要な情報として、正常な上下の有歯顎模型の軟組織における解剖学的ランドマークと歯との位置関係を三次元的に把握するとともに各キーポイント間の寸法を数値化的基準として覚える必要がある。その上

で、石膏模型のひずみ・レジン重合のひずみを極力少なくして、咬合干渉が無い咬合面形態をつくり、適切なニュートラルゾーンのなかで機能する総義歯を製作することこそが使命であると説いておられた。昼食時の際は、診療室での印象採得のビデオを写し、会場前には、堤崇詞氏製作のレプリカも展示させて頂き、大変興味深く参考になりました。



堤 崇詞 氏製作のレプリカ



私たちの製作した義歯で患者さんの日常生活での機能が向上し、全身の健康が改善されますことを期待しています。

(櫻井学術担当理事)

第11回東北南三県野球大会

10月1日(日)福島県日和田野球場にて歯科技工士会東北南三県野球大会が行われた。山形県代表は村山支部5名、中央支部4名、庄内支部2名の11名編制で今大会に望んだ。今春はWBCで日本がチャンピオンになり、夏の高校熱闘甲子園の話題で野球ブームの復活?になったのか、例年とは多少違う雰囲気であった。



第一試合は、福島県対で宮城県6:5で予想に反しユニフォームを新調した福島県の勝利。

第二試合は、我がドラゴンズカラー山形県対宮城県。山形はなかなかエンジンがかからず、序盤に点数を入れられ、その後も点数を重ねられ、最終回意地で2点を還すのが精一杯であった。終わってみれば4:11で負けました。



午後からは、気を取り直して福島県と対戦であった。初回、3回と点を取られたが、なかなか引き締まった試合運びで、その裏、近年には無い、ヒット、セーフティーバント、塁を埋めての満塁ホーム

ラン(ランニング)など打者一巡の猛攻撃で大量10点を挙げ、これはもしかすると、久しぶりの得失点差での優勝か?とポケットから青いハンカチ(欲)を出してしまい、最終回で、大量8点も取られて逆転負けをしてしまった。なぜか夢のような、グラウンドにはやはり魔物が住んでいるようだ。



次回に期待が持てる試合運びとなりました。老体に鞭打ちながらいい汗かいた選手の皆様、お疲れ様でした。来年度は、野球を休み、7月に向けてあの情熱があれば必ずや間違いなく・・・するはずと思ったのは私だけでしょうか? 試合結果はご覧のとおりです。

	1	2	3	4	5	6	計
山形県	0	1	0	1	0	2	4
宮城県	3	4	1	0	3	×	11

	1	2	3	4	5	計
福島県	1	0	2	2	8	13
山形県	0	0	10	0	0	10

追悼

西田健一 さん (村山支部)

昭和15年1月10日生(満66歳)
平成18年11月1日逝去されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。